東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年7月11日】第131号

Nodai Toka

七夕飾り

毎年、１年生は短冊にそれぞれの願いを書き、七夕飾りを作っています。そして、この子どもたちの願い事を読むのは、毎年の楽しみです。

まず、子どもたちの文字が丁寧に、(ほぼ)正しく書かれているのは、うれしいものです。これは日ごろの練習の成果でしょうか。願い事の中身は、家族が元気に過ごせるように、友だちと楽しく遊べるようにというもの、また、大きくなったときの夢を記しているものなどが多く、それぞれにほほえましく読むことができます。新型コロナウイルスが早くなくなるようにという願いは、昨年と同じく、今年もたくさんありました。感染防止のために様々な行動制限がある毎日です。子どもたちには新型コロナウイルスが、常に頭から離れない存在になっているのでしょう。病気をなおす医師や科学者になりたいという子どももいるのは、心強いことです。また、今年はウクライナでの悲惨な戦争を背景に、平和についての願いが書かれた短冊もあり、１年生でもすでに、世の中のいろいろな不幸に胸を痛めている様子がわかります。

このような子どもたちの願いを知るにつけ、大切な子どもたちが社会に出て活躍するようになるまで、よりよい世の中を作り維持するのは、私たち大人の義務だと改めて思います。

なお、７月７日(木)の給食は、七夕にちなみ星形に切った浮き実の入ったそうめん汁、ちらし寿司、そして七夕ゼリーでした。

小菅村宿泊学習から元気に帰校

７月７日(木)から１泊２日で、４年１組の小菅村宿泊学習が行われました。山梨県小菅村と東京農業大学とは長く「源流大学」のご縁があることから、農大稲花小の児童も、この多摩川源流の村での宿泊学習をすることになったものです。前年度から準備や下見を重ね、新型コロナウイルスや台風の心配もしながら、ようやくの実現となりました。

子どもたちは小菅村の皆様にお世話になって、村の様子を見学したり、木工や木おび工作の体験

をしたりしました。また、多摩川源流となる川をたどる「源流体験」もしました。帰路には小河内ダムの見学もした子どもたちは、晴れ晴れとした顔で、元気に帰校しました。小菅村ご関係の皆様には、充実したプログラムをご提供いただいたことに、感謝の言葉しかありません。次は、４年２組が、小菅村にうかがう予定です。

正しいふるまいができるように

本校はじめての本格的宿泊学習が無事行われて、胸をなでおろしています。一方、教室ではなく宿泊学習という場では、子どもたちの特性や家庭の様子がより鮮明に見えてくるのも事実です。教室でも同じなのですが、思いやりのある行動が自然にできる子どもたちが多い中、本人は意識していないのでしょうが、自己中心なふるまいをしてしまう子どもがいます。食事のマナーが悪く、普段のご家庭の様子が心配される子どももいるのです。思いやりの心が無かったり、マナーを知らなかったりすることは、子どもの人生に大きな影響を与えます。今ならまだ間に合います。正しいふるまいが自然にできるよう、家庭でも学校でも、子どもたちを導いていきたいものです。

大きくしてみよう

７月８日(金)、１年生の稲花タイムでは「大きくしてみよう」と題して、実体顕微鏡を使っての観察を行いました。虫めがねからスタートして、簡易な実体顕微鏡(x20)の正しい使い方を学び、自分の指紋、稲穂、そして石英などを含む砂も観察しました。

１年生とはいえ、子どもたちは慎重に顕微鏡を扱い、焦点が合ってきれいな像が見えると、うれしそうな声があがります。休み時間にはそれぞれに、定規、消しゴムのかす、ティッシュペーパー、印刷された紙、折り紙、自分が鉛筆で書いた文字などを見て楽しんでいました。授業後のワークシートには、これから顕微鏡で見てみたいものとその理由を書いてもらいました。新型コロナウイルスという希望もあったのですが、これはちょっと難しいです。でも、そのほかにも、自分の髪の毛、プランクトン、ウサギの毛、鳥の羽、コケの中に住んでいる虫、貝殻、ほくろ、いろいろな虫、カマキリの鎌の部分、….と、子どもたちのリクエストは多岐にわたっていました。これからも、実験が大好きな農大稲花小の子どもたちに応える授業を展開したいと思っています。

校 長　夏 秋　啓 子